

八尾・よろず考古通信

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌 年 2 回発行



平成 25 年度の主な発掘成果から

平成 25 年度に市域で実施した埋蔵文化財発掘調査では多くの成果がありました。

市域南東部に位置する恩智遺跡では、縄文時代後期(前 20C)の遺構が見つかりました。

中央部の成法寺・矢作遺跡では弥生時代後期後半(2C)～平安時代後期(11C)の集落が見つかりました。矢作遺跡一帯は、中世には、京都の石清水八幡宮領で八尾庄と呼ばれた地域にあたります。調査で見つかった集落跡は、これらの荘園の経営に携わった荘民の居住域と推定されます。

西部では、新たに北木の本二丁目遺跡が見つかりました。調査では、鎌倉時代の遺構・遺物が見つかっています。なお、調査地に近接して、摂津・河内の国境を東西方向に通る「磯齒津路」が想定されるため、古代の交通路や道路の存続時期を推定するうえで重要な調査地点と言えます。

平成25年度の主な発掘調査地点



縄文時代後期のムラ跡を発見！

おんち 恩智遺跡<第 31 次調査>(恩智中町四丁目)

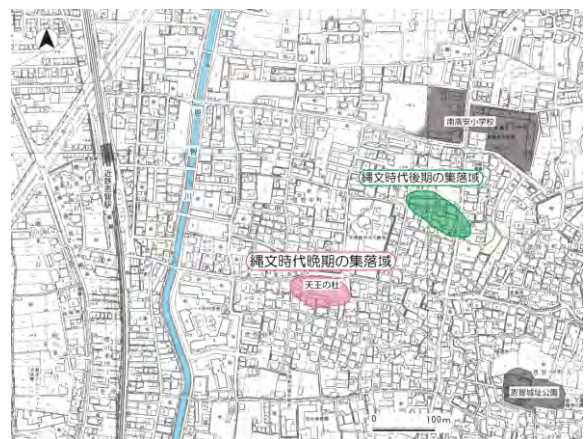
恩智遺跡は大正時代に市域で初めて発掘調査が実施され、縄文時代以降の遺跡として認識されました。特に弥生時代には集落規模が拡大し、地域の中心的な役割を果たした大規模な集落であったことが推定されています。平成 25 年度には、遺跡範囲中央部にあたる旧国道 170 号線(東高野街道)部分で第 31 次調査を行いました。

その結果、縄文時代後期(前 20C)と弥生時代中期前葉(前 2C)および鎌倉時代(13C)の遺物包含層が見つかりました。

今回の調査により、縄文時代後期については、これまでに想定されていた居住域が東に広がることが確認されました。弥生時代中期前半では、新たに居住域が旧国道 170 号線(東高野街道)付近に存在したことが明らかになりました。



弥生時代中期前葉の土器が出土した土坑



恩智遺跡の縄文時代後期～晩期の集落位置

目次

- ◆平成 25 年度の主な発掘成果から(1～3)
- ◆考古学よろずコラム第 11 回 矢作遺跡と八尾市域初例の楠葉型瓦器碗について(4)
- ◆イベント情報/編集後記(4)

奈良時代のムラ跡を発見！

久宝寺遺跡<第 87 次調査> (龍華町一丁目)

久宝寺遺跡は八尾市の西部に位置する縄文時代後期(前 20C)から鎌倉時代(13C)に至る複合遺跡です。

調査では、古墳時代後期(6C)、奈良時代(8C)、平安時代後期(11C)、鎌倉時代(13C)の遺構・遺物が発見されました。

古墳時代後期では、調査区全体に厚く堆積する砂層が見つかりました。砂層内からは完形の土器が出土しています。

奈良時代では溝から生活に使用されていた土器が出土しました。また馬の歯の一部が出土しています。詳細な状況はわかりませんが、何らかの祭祀的な意味を持つ遺物ではないかと思われます。

平安時代では居住域に関連する土坑・溝等が見つかりました。

鎌倉時代では耕作に関連する溝が見つかりました。



奈良時代の土器が出土した状況



奈良時代の溝から出土した馬の歯

やまたいこく 邪馬台国時代のムラや平安時代後期の八尾庄の村跡を発見！

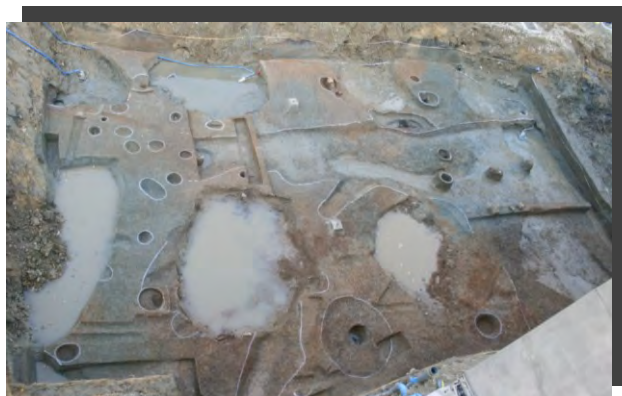
やはぎ 矢作遺跡<第 10 次調査> (高美町三丁目)

矢作遺跡は八尾市のほぼ中央部に位置する弥生時代～中世の遺跡です。地理的には、旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に立地しています。

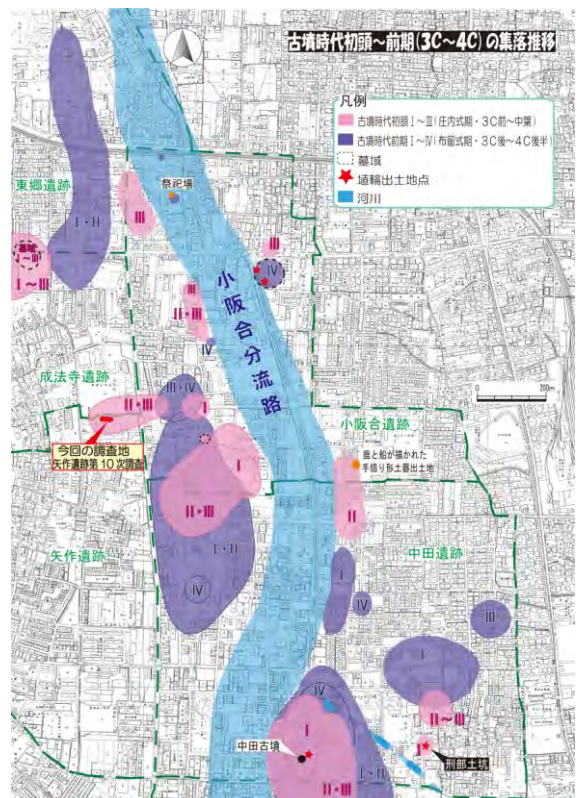
高美小学校給食調理場改築に伴う発掘調査を行いました。調査では当地が弥生時代後期後半頃(2C)に埋没する河川域にあたることを確認され、その後、古墳時代初頭(3C)～平安時代後期(12C)には集落域となっていたことがわかりました。古墳時代初頭では、河内型庄内式甕の成立期の資料が新たに発見されました。また、古墳時代中期(5C)には付近に古墳が築かれていたようで、奈良時代頃(8C)の遺構から古墳に使われた埴輪片が多く出土しています。平安時代後期では、八尾市域では珍しい楠葉型瓦器碗が曲物井戸から出土しています。



古墳時代初頭の土器出土状況



弥生時代後期～平安時代の遺構が発見された状況



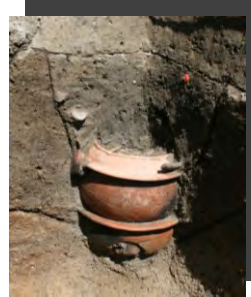
矢作遺跡周辺の邪馬台国時代の集落位置

八尾街道に沿って成立した中世の村跡を発見！

成法寺遺跡<第27次調査>(南本町二丁目)

成法寺遺跡は八尾市のほぼ中央部に位置する弥生時代中期前葉(前2C)から室町時代(15C)に至る複合遺跡です。

調査では、鎌倉時代(13C)の居住域に関連した遺構・遺物が多数見つかりました。調査地一帯は、奈良時代の河川の左岸に形成された自然堤防上にあたります。この地形に沿って南東から北西に伸びる「八尾街道」に隣接した条件も重なり、鎌倉時代以降に、安定した居住域が形成されています。また近世以降は、この街道の東側を中心に、北から西郷・木戸・東郷・庄之内・成法寺・今井・別宮・八尾座の「八尾八か村」が形成されています。



鎌倉時代の羽釜積上井戸



鎌倉時代の遺構検出状況

磯齒津路に面した中世の村跡を新たに発見！

北木の本二丁目遺跡<第1次調査>(北木の本二丁目)

北木の本二丁目遺跡は、八尾市の中西部に位置する遺跡で、平成25年度に実施した遺構確認調査で発見された遺跡です。

調査では、平安時代後期(11C後半)、鎌倉時代(13C)の遺構・遺物が見つかりました。調査地は『日本書紀』雄略紀に記された磯齒津路に近接しています。磯齒津路は住吉津(大阪市住之江)を起点として、大阪市住吉区三軒屋、東住吉区鷹合、湯里、中野、平野区加美鞍作、八尾市太子堂、老原に至る摂津・河内の国境を通る東西方向の直線道で、老原一丁目付近で渋河路と合流しています。今回の調査成果から、磯齒津路が鎌倉時代後期(13C後半)まで存続していた可能性を考える必要があります。



鎌倉時代の遺構検出状況



磯齒津路と河内国古代道路の推定

やはぎ 矢作遺跡と八尾市域初例の楠葉型瓦器碗について

矢作遺跡第10次調査で、平安時代後期前半(11C後半)の井戸から、八尾市域での出土としては初例となる楠葉型瓦器碗1点が見つかりました。

瓦器碗は、いぶし焼きにより灰黒色に焼かれた軟質の土器で、近畿地方を中心に平安時代後期前半(11C後半)～室町時代初頭(14C中葉)に使用された主要食器です。

その特徴から、楠葉型・大和型・和泉型・丹波型・紀伊型の5種類に区別されており、分布圏が異なります。

八尾市域では、和泉型瓦器碗が大半を占め、大和型が少量出土しています。楠葉型瓦器碗は、生産地である大阪府枚方市楠葉の楠葉東遺跡を中心とする枚方市・高槻市・寝屋川市などの大阪府北部の淀川中流域を中心に分布が確認されています。

矢作遺跡から楠葉型瓦器碗が発見された理由としては、当地および楠葉型瓦器碗の生産地であった枚方市の楠葉東遺跡一帯が石清水八幡宮領の荘園であり、荘園領家が共通していた点が矢作遺跡へ楠葉型瓦器碗が持ち込まれた要因の一つであったと推定されます。



楠葉型瓦器碗



畿内における主な瓦器碗の分布範囲

	大和型	和泉型	楠葉型
成り期 11世紀 の瓦器碗			
12世紀初頭頃の 口縁部の違い			

大和型・和泉型・楠葉型瓦器碗の違い

編集後記

2014、今夏の地球も荒ぶれた。頻繁するゲリラ豪雨には、最大級の注意喚起を促す形容詞が付加され「特別警報」「記録的短時間大雨情報」の報道が日常的に飛びかった。更に、猛暑、竜巻、地震、御嶽山の噴火、大型化する台風、異常気象のオンパレード。人類は、自然の驚異に対して何時も無力で、コントロールや予知なども不可能に近い。それなのに、経済優先の大義を振りかざして、地球の機嫌をそこなう行為を行ってきた。この愛すべき惑星を汚した罰として、今年も、世界各地でレッドカードが乱発され、掛替えのない尊い命を多く奪っていった。

永い地球の歴史の中では、今夏の異常気象も一瞬の出来事に過ぎないが、今を生きる人類にとっては深刻な問題だ！恒常的にならないことを切に願っている。(MH)

イベント情報

- ◆平成26年度秋季企画展
「やおの古墳時代—邪馬台国時代の河内地域の墓制—」
期間:平成26年10月1日(水)~平成27年2月20日(金)
時間:午前9時~午後5時、入館無料
休館日:土、日、祝日、年末年始(12月27日~1月4日)
- ◆講演会
「中河内地域における邪馬台国時代の墓制について」
講師:原田昌則<当施設学芸担当>
日時:平成27年1月25日(日)午後1時30分~(先着30名)
場所:八尾市立埋蔵文化財調査センター



八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌
『八尾・よろず考古通信 第11号』

発行:2014年10月31日、八尾市立埋蔵文化財調査センター
(編集:公益財団法人八尾市文化財調査研究会)
〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2
TEL・FAX 072-994-4700
E-mail: maibun_zyao@kawachi.zaq.ne.jp

